

CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.91 - 2016年7月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



兄

弟の皆さん、友人の皆さん、

今年2016の前半、総長は自らの代理としてインド北東部のグワハティ管区の特別視察を行うという贈りものを私にくださいました。グワハティ管区は、会として私たちが共有できる最も美しい宣教の物語の一つです！ まもなく2022年に、インドのこの地方にドン・ボスコの子らが初めて到着してから100年目の記念を祝います。私はここで、ドン・ボスコの宣教師たちの中で最高齢の会員に会いました：サルデーニャ（イタリア）出身でインド国籍も持っているマリオ・ポルク神父です。マリオ神父の生まれて98年目の記念日を、共に祝うことができました。マリオ神父はそのうち“たった”77年を宣教師としてインドで過ごしてきました。このようなお祝

いの伝統にのっとり、希望のしるしとして、マリオ神父は色とりどりのさまざまなスカーフをプレゼントされました。私は隣に座っていました。最初のスカーフを受け取ると、マリオ神父はそれを私にかけ、言いました。「これをヴァルドッコのキリスト者の扶け聖マリアのところへ持って行ってください。」私は大きな喜びと誇りをもってこの務めを果たしたいと思います。年を重ね円熟しながら、まったくマリアの子であると感じる宣教師に出会うことは何と快いことでしょう！ これこそドン・ボスコが本当に必要としているものです：マリアを心から愛する宣教師！

宣教顧問

ギジェルモ・バサニェス神父

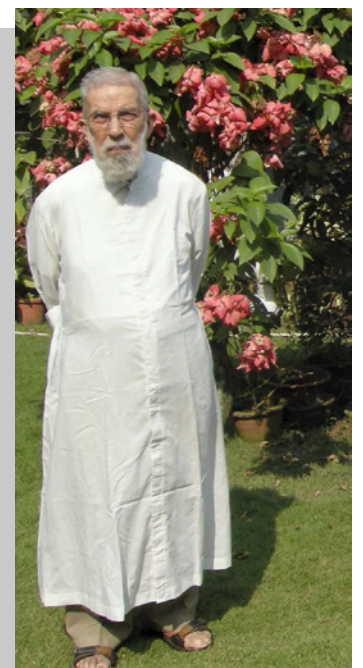
サレジオ会グワハティ管区は、2016年6月23日、午前1時40分、グワハティのドン・ボスコ管区長館で帰天したポルク・マリオ神父の死を悼んでいる。管区長V・M・トマス神父は「マリオ神父は兄弟会員に囲まれながら、平和のうちに、おだやかな死を迎えました」と伝えた。葬儀ミサは6月24日、聖ヨセフ準司教座教会で執り行われ、続いて告別式と埋葬がグワハティ、ウザン・バザールのキリスト教墓地で行われた。

インド北東部の最長老の宣教師は1918年5月21日、イタリアのカリアリ生まれ、98歳だった。インドに75年暮らし、インド政府が北東部のアッサム州から外国人宣教師を追放していた1965年、インドに帰化、“害のない宣教師”とされた一人だった。当時、マリオ神父は、インド北東部で名声を得ていたシロンのドン・ボスコ高校の校長だった。

アッサム平野や隣接するブータンの仏教王国、メガラヤのカージ、ガロ丘陵地帯の宣教を開拓したマリオ神父は、“七人姉妹”として知られる地域各地で宣教の前線に立って働いた。

マリオ神父は、5月30日には、アッサムでの職業教育の開拓者として、48年目を迎えたグワハティの職業技術訓練校が北東インドの玄関口マリガオンで電気機器製造ハブとして出発する開所式に列席した。

マリオ神父は1968年、マリガオンで新たな分野を切り拓き、製造技術を学ぶドン・ボスコ技術訓練校（DBTS）を設立した。同校は、グワハティ・ドン・ボスコ教育協会が運営する非正規の技術教育機関で、アッサムと隣接するインド北東部諸州の、学校から落ちこぼれた若者を含む、地方の疎外された貧しい若者に、技術教育や訓練をほどこすことを目指した。同校はこの3年だけでも3千人以上の恵まれない若者を育成し、その8割以上が良い就職先を得ている。



[ANS 2016年6月24日]

多くの計画やプログラムもいけれど、イエス・キリストを忘れないで!



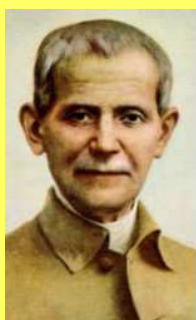
類は福音をととても必要としています。福音は喜び、希望、平和の源です。宣教の使命は優先課題です。なぜなら宣教の働きは今日もなお教会が取り組む最大の挑戦だからです。「わたしはどれほど強く、福音宣教を励ますためのことばを見つけたいと願っていることでしょうか。福音宣教の一段階が、いよいよ熱い心で、もっと喜んで、さらに惜しみなく、ますます大胆になって、そしてあふれる愛と魅力的ないのちでいっぱいになるように!」(『福音の喜び』261)

福音を告げ知らせることは教会の第一の、永続的な関心事です。教会の本質的な役割、最大の挑戦、そしてその刷新の源です。福者パウロ六世は加えて言います、「教会の召命です」と。実に、福音宣教の使命から、その力強さと有効性から、教会と、教会の組織、司牧の働きの真の刷新が生まれるのです。福音宣教のために居ても立っても居られない心、関心がなければ、信頼できる効果的な司牧アプローチを組み立てることは不可能です。福音を告げることと人間性の向上を一つに結ぶ司牧アプローチです。「福音宣教はあらゆる教会活動の典型である」(同15)。

……皆さんの役割は、挑戦に満ちたもの、特権的なものです：皆さんのまなざし、関心は、人類の広大な、普遍的な地平に向けられています、地理的な、そして何よりも、人間存在の frontline に……お願いします、助成金を普段のとき、特別なときに分配する事務局のような NGO になってしまう誘惑に陥らないよう、注意してください。お金は助けになります-それはわかっています! -しかし、使命を減らすものにもなりうるのです。機能主義が中心になるとき、あるいはあたかも最も重要なことであるかのように大きな位置を占めるとき、皆さんを破滅へと至らせるでしょう。死を招く第一の方法は、“源泉”、すなわち使命を動かす方を、当たり前のように感じ忘れてしまうことです。お願いします、多くの計画やプログラムの中で、皆さんの宣教活動からイエス・キリストを外さないでください、それは彼の活動です。体制を維持する組織の能率主義だけで動く教会は、すでに死んでいます。たとえその構造やプログラムが、聖職者や“独立団体”の信徒たちによって何世紀にもわたって生きながらえたとしても。

真の福音宣教は、聖化する聖霊の力のうちに行われるのでなければ、不可能です。聖霊だけが、教会を新たにし、目覚めさせ、すべての人に福音を告げ知らせるため大胆に前進するよう駆り立てることがおできになるのです(同261)。福音宣教の星、おとめマリアが、神の国への情熱をいつも私たちに得させてくださいますように。福音の喜びが、地の果てまで届きますように、そしてどのような辺縁の地も、福音の光を見ないということがありませんように。親しみをこめて皆さんを祝福します。そしてどうか、私のために祈ることを忘れないでください。

[2016年6月5日 教皇庁立宣教会総会への教皇フランシスコのあいさつより抜粋。
サレジオ会の宣教促進にも関わる大切な点が強調されているため、ここに掲載しました。]



サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ピエル・ルイジ・カメローニ神父

サレジオ会修道士尊者シモン・スルギ(1877-1943)の墓碑に次のように刻まれています。「キリストの市民、あらゆる場所にキリストを見いだした。善いサマリア人の柔和、謙遜な姿、キリストに倣うため、すべての人に、すべてにおいて自らをささげた。」シモン修士のノートに次の言葉があります。「修道者の行いは、どれほど小さく単純なものであったとしても、神を喜ばせるために行うなら、神にとって価値のある、み心にかなうものとなる。」また、このように書いています。「神を愛するということは、思い、言葉、行いのいずれによっても、ほんのわずかでもみ心にかなわないことを行わず、私をこれほど深く愛して下さったわが神を、心から愛することだ。」



サレジオ会の宣教の意向

ラテン・アメリカとカリブ海地域のサレジオの学校・大学が、ますます福音を広める場となりますように。

ラテン・アメリカとカリブ海地域には大きな数に上るサレジオの学校・大学があり、一人ひとりの若者と復活された主との出会いを助ける類ない機会が与えられています。我々の奉獻された人々の共同体を助け、光で照らしてください、聖霊に願わなければなりません。奉獻生活者の共同体が、教育-司牧の奉仕を活気づける中核として、学校や大学の若者たちにイエス・キリストを効果的に告げ知らせる最もふさわしい、実りある方法を見だし、強化することができますように。

